

出前講座 大原公民館

平成28年6月23日(木) 11:00~11:30 参加者:18名
(男性:2名 女性:16名)

【講話】

I・「いつまでも自宅で暮らすために」(在宅医療)について

医療・介護についての現状といちき串木野の現状
これからの在宅医療と介護の方向について

地域包括支援センター 保健師 久保小百合

人間に死亡率は100%です。どこで最期を迎えたいか、どんな生活をしながら最期を迎えたいか
元気な時に考えておくことも大事です。

高齢化社会の現状、と2025年問題についてと高齢化社会に基づく医療、介護の現状の中でいちき
串木野市に置き換えるとすでにその状況になりつつある。施設も病院も長く入っておられない時期が
くるかもしれない。地域で支え合って介護が必要な人を見守っていくことも大事です。

行政も医師会も一緒になって在宅での医療や介護について地域でできることについて検討していく事
業をすすめています。

医療や介護などでの相談もしていただくように窓口も設けています。

II・「頑張りすぎない介護を応援します」

退院支援の事例紹介

いちき串木野市医師会 在宅医療コーディネーター南新敦子

介護度が高い患者さんでも、家族や本人の意向に沿って入院中からサポートしながら自宅に帰るた
めの準備をしていきます。

訪問の看護師やリハビリのスタッフの支援もサービスで受けられます。ご家族の介護負担がすこし
でも軽くできるようにサポートしていく相談もあります。

パンフレット:「がんばりすぎない介護を応援します」紹介
マイライフノートの紹介と説明

III・マイライフノートの記入

【会場からの声】

・「自分の母親が急に倒れて緊急手術を受けるかで家族としての決定を求められた。兄弟で受ける判
断をしたが結局母の意識は戻らないまま亡くなった。本当に母が望んだ治療だったのか今でも考えさ
せられる。その後母の兄弟たちは、こんなことにならないように自分の意向を便箋にかいて名前と印
鑑をおして書類をつくった。当時マイライフノートがあればよかったかもしれない」
元気なうちに自分の思いを書き残しておくことは大事だと実感した。

・今日の話は自分たちの身近なことなので本当によかった。
こんな話を聞いてみたかった。

・理屈では理解しているが、実際どこにどんなふうに相談していいのかわからない。
なんでも相談できる場所があると心強い。
わかりやすく教えてくれるところがあればいいと思っていた。